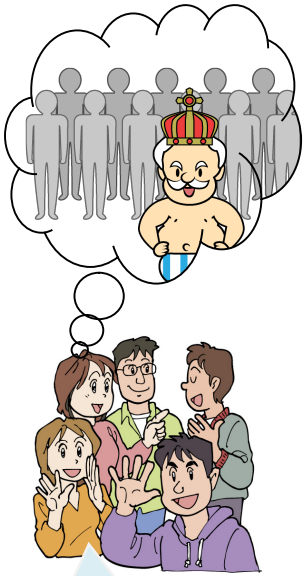
軽視される社会インフラ

最近の気になるニュース

昨年９月のダイヤ改正により、乗客側から多くの不満が殺到しているのは、ご存じかと思います。先月の西日本新聞の記事によると、福岡都市圏のＪＲ減便について、利用客千人以上から「**これまでにない混雑で疲れ果てる**」「**乗り降りに時間がかかり、列車が遅延する**」「**夕方の博多駅は人がごった返し、線路に落ちるのではないかと怖くなる**」などの苦情が寄せられ、それは現在も続いているとのこと。わが社は、今回のダイヤ改正の理由を「乗客がコロナ前の９割程度に落ち込み、元に戻らないと判断した」と説明しており、「改正直後は一部の列車で混雑が激化したが、利用者が自ら時間帯をずらしたり、増車の対応をしたりして、現在は大きな混乱はない」との見解も示しています。当然ですが、「コロナ前の９割」というのはどう考えても結構な乗客数。今後、コロナは収束する傾向にあることからも、今の列車本数や両数は、あまりに無謀。混雑しているのが「一部」の列車である筈がない。また、利用者が自ら時間帯をずらさないといけない状況など、本来あってはならないわけで、それを良しとする旨の回答を公に示すのは、公共交通機関として恥ずべき姿勢としか言えません。

犠牲になる一般市民

「**社員ひとり満足させられないような会社が、お客さまを満足させることなどあり得ない。**」というのは、一般論として定着していますが、これはあくまで、社員を雑に扱うと、社員のモチベーションが下がって接客もいい加減になり、結果、お客さまの不満が高まる、といったレベルの認識に止まっていて、社員から搾り取るだけ搾り取ったら、次は乗客からも搾り取ってやろう、というわが社の極度の利己主義は、もはや常人の理解を超えています。例えば、いい時間帯に快速列車がなくなり、やむを得ず特急列車に乗車したが、車内には自販機もないし、トイレ内に石けん水もない、さらには、混雑で座れない、でも料金だけは値上がりしている、というのは、乗客からするとボッタクリもいいところ。「サービスを社風へ」という高尚な言葉だけが一人歩きしている、まさに「裸の王様」状態と言えます。「利益」に偏り、「公共の福祉」を度外視した会社の姿勢が、一般市民からの反発を招いているという事実からも、私たちは、もはや「労働環境」のみならず、「社会秩序」を守るために声を上げるべき段階まで来ています。



サービスで日本一？地域を元気に？何一つ実現出来ていない...

NRU

若い力

第 172 号
2023 年　3 月 1 日
発責　国労九州本部

博多区博多駅東３丁目９番３号
ニッコーハイツ１００３号
ＪＲ　０９２－２０７５
ＮＴＴ　０９２－４８３－１５１５